

## 【基盤研究(S)】

### 大区分A



## 研究課題名 中東部族社会の起源：アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究

金沢大学・名誉教授 ふじい すみお  
藤井 純夫

研究課題番号：19H05592 研究者番号：90238527

キーワード：アラビア半島、遊牧社会、部族制、新石器時代、青銅器時代

### 【研究の背景・目的】

今日、我々の中東理解は、「古代のロマン」と「地政学的イスラーム」とに二極分化しており、その意味で、知の全体性を欠いている。中でも、中東社会の一方の本源を成す遊牧部族社会は、歴史的・地理的・民族的景観の一つとして矮小化され、人類学的な記述を除けば、厳密な意味での知の対象となり得ていない。この状況を打破するには、「肥沃な三日月弧」外側の大乾燥域に点在する先原史遊牧民の具体的足跡を丹念に拾い集め、歴史の中に正確に位置付けることが必要となる。

本研究は、1) アラビア半島先原史遊牧民の遺跡調査を通して、中東部族社会の起源問題を、従来の類推・敷衍レベルの間接的論議から、正確な年代と具体的な遺跡名を伴う実質的論議へと誘導し、2) 中東社会の史的特質を遊牧部族社会の形成過程にまで遡って解明することを、目的とする。中東社会の最も内奥に潜む、中東社会ならではの史的特質。それを探り当てたい。

### 【研究の方法】

調査・研究の対象となる時代は、ヤギ・ヒツジが家畜化された新石器時代の前半（紀元前8000年頃）から、遊牧部族社会が成立したとされる前期青銅器時代（紀元前3000年頃）までの、約5千年間である。対象となる地域は、ジャフル盆地（ヨルダン南部）、ヒジャーズ地方（サウジ北西部）、スマーマ高原（サウジ中部）、バーレーン、エジプト東部砂漠である。

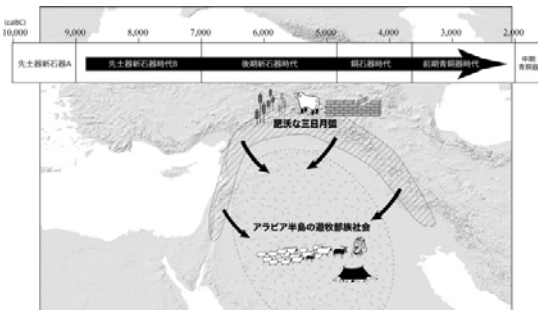


図1 研究の地理的・年代的枠組み

5千年間の文化動態を追跡するため、先史考古学のみならず、動物考古学、形質人類学、生命科学、社会学、文化人類学、岩絵・碑文学などを総動員し、テントで移動しながらの包括的な遺跡調査を実施する。具体的には、以下三つの段階的な課題を設定し、中東遊牧部族社会の起源に迫る。

① 遊牧化の When/Where/What (編年プラットフォームの構築)：遊牧化5千年の歴史を一つのシーケンスとして連続的に捉えるには、個々の事象を時系列に沿って並べると同時に、文化空間に応じて相対配置するための、編年プラットフォームの構築が必須となる。考古班を中心に作業を進める。

② 遊牧化の How/Why (遊牧化過程の動態研究)：分析班の協力を仰ぎ、遺跡調査で出土した人骨・動物骨・花粉その他資料の分析を進めると共に、その成果を編年プラットフォームに載せて遊牧化の動態を追跡する。着目するのは、アラビア半島の古環境、墓制・葬制から見た遊牧民の集団構成とその地理的・時間的変遷、威信財や羊毛刈り用石器の生産・流通から見た遊牧民の移動パターンと社会共生システム、岩に刻んだ部族標識(ワスム)から見た遊牧部族の形成過程、砂漠の水利問題などである。

③ アラビア半島先原史遊牧部族社会の起源と史的特質(総括)：課題①②の成果を基に、今日もなお中東社会を特徴付けている遊牧部族社会の起源とその史的特質を明らかにする。

### 【期待される成果と意義】

期待される成果の第一は、「肥沃な三日月弧」内側の都市・農村社会に偏した従来の中東史の刷新である。遊牧部族社会の動向を組み込むことによって、格段に包括的な史的展望を描くことが可能になる。

第二は、これに基づく中東理解の複眼化である。これには、我々西洋近代文明型社会にありがちな定住域中心の中東理解を是正するという意義がある。

### 【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- Fujii, S. (2013) Chronology of the Jafir Prehistory and Protohistory: A key to the process of pastoral nomadization in the southern Levant. *Syria* 90: 49-125.
- Fujii, S. (2018) Bridging the enclosure and the tower tomb: new insights from the Wadi al-Sharma sites, north-west Arabia. *Proceedings of Seminar for Arabian Studies* 48: 83-98.

### 【研究期間と研究経費】

令和元年度～令和5年度  
136,700千円

### 【ホームページ等】

作成中